

報道関係者各位

PRESS RELEASE 2016年3月4日

## 3/20(日) 報告会・鹿子踊上演・シンポジウム開催！ 「三陸国際芸術祭 2015」「Sanriku-Asian Network Project」 東日本大震災から5年、文化芸術による復興からオリンピックへ



(左)カンボジア・アマリタ・パフォーミング・アーツ



(中央)白澤鹿子踊



(右)コミュニティ・ダンス

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)と共同で、「三陸国際芸術祭(サンフェス)」と連携し、東北とアジアを芸術でつなぐプロジェクト「Sanriku-Asian Network Project(サンプロ)」を実施しています。このたび、東日本大震災から5年という節目を迎え、2015年のサンプロ・サンフェスの総括と、郷土芸術と東北の未来を考えるシンポジウムを開催します。

今年度のサンプロ・サンフェスでは、新たな試みとして、同じく芸術を通じてコミュニティの復興に取り組む、スマトラ島沖地震と大津波の被災地インドネシア・アチェ、またクメール・ルージュ体制下で深刻な打撃を被ったカンボジア・プノンベンから伝統芸術団体を招へいしたり、東北の団体をアチェに派遣するなど、被災地に生きる芸術家同士の交流をはかりました。

「習いに行けず！東北へ、アジアへ！！」と題したプロジェクトでは、岩手県大槌町の郷土芸術「白澤鹿子踊(うすざわしおどり)」にプロのダンサーや音楽家が体験入会し、実際にお祭りにも参加。コミュニティ・ダンスでは、大船渡と気仙沼に住む小学生から80代までの参加者が、世代を超えて集まりました。日本全国、そして海外から、年代を問わず、一般市民だけでなくプロのアーティストなど様々な方を巻き込み、互いに学びあい刺激あいながら祭りをつくり上げることで、新たな郷土芸術の形、交流の場が生まれました。

報告会では、そのフェスティバルの舞台裏や新たな試みの報告とあわせ、文化芸術による復興と郷土芸術の未来、そして東京オリンピックの文化プログラムへの展望等について、様々な分野のパネラーを招いて議論します。

つきましては、貴メディアでの公開イベントのご紹介、当日のご取材をご検討いただけますと幸いです。

### ■報告会 概要 (途中退場可)

【日程】	2016年3月20日(日)13時30分-17時30分
【会場】	国際交流基金 本部 JFICホール「さくら」/「けやき」
<第一部>	「サンフェス+サンプロ 2015」報告会 13時30分-14時30分
<第二部>	「白澤鹿子踊上演」 14時30分-15時30分
<第三部>	「東日本大震災から5年、文化芸術による復興からオリンピックへ」 15時30分-17時30分

イベントの詳細につきましては、[次頁](#)、または国際交流基金アジアセンターウェブページをご覧ください。

◇ウェブページ: <http://jfac.jp/culture/events/san-project-2/>

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター文化事業第2チーム(担当: 稲田、小島)

Tel: 03-5369-6025 / E-mail: sanriku@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(担当: 川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

<別紙>

■報告会 概要

【日程】 2016年3月20日(日)13時30分-17時30分  
 【会場】 国際交流基金 本部 JFICホール「さくら」/「けやき」

**<第一部>** 「サンフェス+サンプロ2015」報告会  
 時間: 13時30分-14時30分  
 内容: サンフェスとサンプロの舞台裏や新たな試みによる成果について映像を交えて報告  
 登壇者: 佐東 範一 (NPO 法人 JCDN)  
 千田 優太 (ARCT/ダンス幼稚園実行委員会)  
 前川 十之朗 (みんなのしるし合同会社)  
 東梅 英夫 (臼澤獅子踊保存会)

**<第二部>** 「臼澤鹿子踊上演」  
 時間: 14時30分-15時30分  
 内容: 外部アーティストの受け入れ(「習いに行けぜ」)やインドネシアでの現地芸能団体との交流を行った、岩手県大槌町の臼澤鹿子踊保存会による鹿子踊の演舞  
 出演者: 臼澤鹿子踊保存会 10名  
 「習いに行けぜ」参加者(ダンサー、音楽家、美術家ら5名)  
 解説: 稲田 奈緒美 (舞踊評論・研究者)

**<第三部>** 「東日本大震災から5年、文化芸術による復興からオリンピックへ」  
 時間: 15時30分-17時30分  
 内容: サンフェスとサンプロの今後、文化芸術による復興、郷土芸能の未来、東京オリンピック文化プログラムへの展望等について、関係者によるパネル・ディスカッション  
 モデレーター: 吉本 光宏 (ニッセイ基礎研究所)  
 パネリスト: 佐東 範一 (NPO 法人 JCDN)  
 前川 十之朗 (みんなのしるし合同会社)  
 桜井 俊幸 (文化芸術による復興推進コンソーシアム東京事務所)  
 小岩 秀太郎 ((公社)全日本郷土芸能協会)  
 古水 力 (大船渡市郷土芸能協会)  
 武藤 大祐 (群馬県立女子大学) ほか

(敬称略)

<三陸国際芸術祭>

郷土芸能の宝庫と称される東北で、地域住民の心のよりどころである郷土芸能を、東北だけでなく日本、アジア、そして世界に発信することを目指し2014年から開催。

1.郷土芸能の宝庫である東北沿岸部・三陸地域の魅力を、日本全国そして世界に発信すること、2.海外、特にアジアを中心に芸能を招へいし、東北地方の芸能と海外の芸能が交流し、互いに刺激し合う場となること、3.同時に、参加した団体同士や地域間の交流が生まれる場となること、を目指す。

<Sanriku-Asian Network Project>

国際交流基金アジアセンターとJCDNとで、「三陸国際芸術祭」とも連携しつつ、年間を通して東北とアジアを芸能で繋ぐことを目的としたプロジェクト。

1. アジアの芸能を招へいするプログラム、2. 被災地の郷土芸能をアジアに派遣するプログラム、3. 新しいアジアの芸能を創出するプログラム、4. 伝統と現代を結びつけるプログラム、5. 調査・研究・アーカイブプログラム、6. 災害と芸能芸術をテーマとした学術交流プログラム、などを実施している。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター文化事業第2チーム(担当:稲田、小島)

Tel: 03-5369-6025 / E-mail: sanriku@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(担当:川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp